

7月の園だより

《園長の言葉》

令和元年度 竜光保育園 第649号

プール遊びや夕涼み会などお楽しみも盛りだくさんの7月ですが、梅雨はまだ入ったばかりで、ここ2～3年続く梅雨末期の豪雨も気になります。湿度の伴った暑さによる熱中症も心配になってきますが、時折のぞく梅雨の晴れ間からの光を浴び、子どもたちとともに笑顔で輝いているアサガオのように、明るく過ごしていきたいと思います。

さて、昨今、様々な外国の幼児教育手法(メソッド)を取り入れている保育園や幼稚園が増えています。その1つに「レッジョ・エミリア」というメソッドがあります。第2次大戦後のイタリアが発祥で、1991年に米国の著名な雑誌に取り上げられた事により高く評価されそれ以来世界的に広がり、近年では米国「Google」社内の保育所にも取り入れられ話題になっているそうです。その理念は、子どもたち一人ひとりの意思や個性を尊重し、個々の感性を生かすことが最も重要であるというもので、特徴の1つとしては、大人が決めたものではなく子ども自身が考えたカリキュラムを用いるというものです。例えば作品展等に向けて作品を作する場合、子どもたち自身で「個人で作るのか、みんなで作るのか」「何を作るのか」等、小グループで話し合いながら進めていきます。その中で子どもが自主性や協調性、探究力を身に付けていくというものです。このメソッドのポイントとしては、アトリエリスタ(美術専門家)やペダゴジスタ(幼児教育専門家)というスタッフや保育士、時には保護者もいっしょに子どもの創造的活動を支援する事があるものの、基本としては、保育士は指示を出さずに、見守っていくのだそうです。そのため、子どもの毎日をしっかりと記録するために、メモや動画、録音などを使って記録することが重要だと言います。先日、ある保育園の園長先生が、その「レッジョ・エミリア」のメソッドを大々的に採用している保育園を訪ねたそうです。その園では、広いスペースの中で上述したような保育を実践していたそうですが、保育士はというと子どもたちのその場の記録ではなく、他の書き物を平然と行っていたそうです。これでは単なる自由保育とも言えず、子どもたちを放任しているとしか思えなかったそうです。私自身、その場に立ち会ったわけでもなく、レッジョ・エミリアを熟知しているわけでもありませんが、もしその通りだとすれば、保育の質向上のために取り入れたメソッドに胡坐をかき、保育士の熱意も、何よりも「視点は子どもたち」が欠落しているとしか思えず残念な気持ちになりました。

私は決して、欧米の幼児教育を全面否定するつもりはありませんが、日本の小学校以降の教育や会社組織は今でも、「まず、集団の和を大切にする」という事が前提としてあり、欧米の「まず、一人ひとりの個性ありき」の教育一辺倒がしっくりいくとは思えません。どちらにも偏らず、双方の優れた部分を、臨機応変に子どもたち一人ひとりに取り入れていくことが肝要なのではないでしょうか。そして何よりも「子どもに寄り添う視点」、これなくしてはありえません。

7月の行事予定

- 2日(火)美咲ヶ丘七夕会(桜組)
- 5日(金)七夕会
- 9日(火)プール開始
- 14日(日)夕涼み会
- 16日(火)身体測定
- 17日(水)避難訓練
- 23日(火)体操教室(プール)
- 24日(水)誕生会
- 30日(火)体操教室(プール)

6月の誕生会



～みんなが元気になる言葉～No.3

～過去の事実は変えられないが、過去の意味は変えることができる～《不詳》
これも以前に何かのドラマで聞いた台詞だったと思いますが、妙に残っています。誰にも思い出したくない過去があります。起きた事実を変える事はできませんが、その「意味づけ」を変えることはきっとできるはずです、自分次第で。辛さはすぐにはなくなりますが、心が少し軽やかになるのでは…

保育参観&試食会には多くのご参加を頂き有難うございました。

☆おすすめ絵本のコーナー☆



『いちにちじごく』

作:ふくべ あきひろ
絵:かわしまななえ 出版社:PHP 研究所

ページをめくるたびに子どもたちのドキドキ感は半端ないはずです。殺伐とした事件が多い中、いずれこの本が子どもたちの心のブレーキへと繋がってくれば良いです。読み終えた後、きっと子どもたちはみんな悪いことができなくなるはずです。

『へんしん!かおはめえほん おしごと』

作:ささがわ いさむ 絵:たがわ ひでき
出版社:学研プラス

みんなで“顔はめ”や“ことば遊び”を楽しみながら、「お仕事あて」を楽しむことができる爆笑まじがいなしのしかけ絵本です。パンやケーキの絵がまさか!の…になって思いもよらない仕事人があらわれますよ。



郵便局と農協への七夕かざり訪問

